

## 学校経営のポイント

### “パラリンピック選手”から学ぶこと

若井 彌一

アテネ・オリンピックでの日本選手団の活躍ぶりに大いに元気づけられたこの夏であったが、同じアテネで、今度はパラリンピック（ATHENS 2004 PARALYMPIC GAMES）が開催されている（9月17日～9月28日が開催期間）。

#### 障害者スポーツの祭典“パラリンピック”

今回のパラリンピック・アテネ大会には、136の国・地域から約3800人の選手が参加予定という。

日本からは、選手163人と伴走者やコーチ等108人、合計271人が参加する予定となっている。（<http://www.yomiuri.co.jp/>による）

パラリンピック（Paralympic）は、paraplegiaとOlympicの合成語で、国際身体障害者スポーツ大会の通称である。歴史的にはまだ浅く、1960（昭和35）年以来、4年に1回、オリンピック開催地で開催されてきたものである。

そのルーツは、イギリスの神経専門医師であったルードイヒ・グッドマン博士が、障害者のリハビリにスポーツが効果的であることに注目して、1951（昭和26）年に、両下肢麻痺の人々の競技会を開催したことに求められると言われる。

パラリンピックの名称（呼称）は、東京大会（1964昭和39年）の東京オリンピックの年に開催以来のものであり、それまでは「国際ストーク・マンデビル競技大会」との名称であった。

「little WAVEの会」HPでは、Paraは現在では「もう一つの」と解釈されていると解説している（<http://homepage3.nifty.com/little-WAVE/paralympic/pic001.htm>による）。

今回の大会では、次の競技種目が企画・予定されている。アーチェリー、陸上競技（マラソンを

含む）、ボッチャ、自転車競技、馬術、車いすフェンシング、脳性麻痺者7人制サッカー、視覚障害者5人制サッカー、ゴールボール、柔道、パワーリフティング、セーリング、射撃、シッティングバレーボール、水泳、卓球、車いすバスケットボール、車いすラグビー、車いすテニス。

#### “向上心をもって生きる”大切さ

身体障害者の競技大会と聞いて、限定された種目をイメージする人々も少なくないであろうが、これほど多様な種目が予定されており、選手たちは弛みなく鍛えてきた技術と実力の発揮に全力をそそぐ。

児童・生徒の関心は、入賞者数やメダル獲得数に向きがちであろうが、選手たちは障害に屈することなく強い向上心をもって高水準の競技力を身につけるまでになったことを、報道で紹介されている実例等を強調して解説していただきたい。

児童・生徒には、その解説により、向上意欲をもって前向きに生きることの大切さ、というよりも、すばらしさに気づくことであろう。その気づきは、スポーツだけでなく、教科等の学習にも大きなプラス効果をもたらすと期待される。パラリンピックについて知ったこと、考えたこと、感動したことを文章化する試みも効果的かと思われる。

パラリンピックを、単なる他国の障害者スポーツ行事として見過ごすのは、あまりにも惜しい。

（わかい・やいち＝上越教育大学教授）

最新資料の全文収録と論点演習！  
**教職研修 '04 情報版**  
B5判 270頁・定価 2625円

#### ●新刊案内●

最新刊 好評発売中！

教育開発研究所刊

全国精選小・中41校の実践報告を分析・紹介！ 実際の説明資料やシートなど資料を多数収録！

## 『「学校の説明責任」を実践から学ぶ』

尾木和英【編集】

B5判 208頁・定価 2500円